

## 新刊紹介

『武田氏末路考入峡記』を繙く

著者 堀内万寿夫



A5版 上製 192ページ

定価 1,980円 (税込)

令和5年1月より販売

問い合わせ先

八田政恭

090-8872-7858

hatta@toukai.me

『入峡記』とは旧幕臣であり、彰義隊にも参加し、『日本奴隸史』などの著者である阿部弘蔵が明治35年に書いた山梨への紀行文であるが、先祖阿部加賀守勝宝（武田家の使い番十二衆の一人）の墓参を兼ねて武田勝頼公の末路を、様々な文献を参照しながら考察した歴史考察書でもある。

入峡記序を記した「鷹洲逸史完之」織田完之は 明治8年頃ここ八田村の八田家を訪れたであろうことが伺える記述がある。

勝頼公が新府を出立し、駒飼での滞在から天目山までの経路の考察。

敵軍滝川一益の進路、川尻秀勝の進路について考察している。

しかしなぜかその後の歴史考察分野では殆ど取り上げられていない。阿部弘蔵の記述は難解で現代の国語教育のレベルでは理解が難しいと思われるため、この『入峡記』を現代の言葉に書き直して、改めて世に出そうと考えた。

読者の理解を助けるためと、歴史遺物の紹介をするために写真を多用して一冊の本に纏めた。

近年の歴史研究とは一線を画し、通説、俗説を見直す意味でも、120年前の明治35年にどんな資料や遺物があったのかを確認する意味でも一読の価値がある。

### 購入可能書店 施設売店等

石和温泉 宿泊施設売店など (県立博物館売店)

(甲府 朗月堂書店) (甲斐市 敷島書房)

(天真堂書店 山梨市 甲州市 甲府市各店)